EPMEWSE

男女共同参画学協会連絡会

THE JAPAN INTER-SOCIETY LIAISON ASSOCIATION COMMITTEE FOR PROMOTING EQUAL PARTICIPATION OF MEN AND WOMEN IN SCIENCE AND ENGINEERING

PRESS RELEASE
報道関係者各位

一般社団法人　男女共同参画学協会連絡会
2026年11月25日（水）

研究者を取り巻く環境はどう変化しているのか

20年以上の継続調査で見えてきた課題

― 第6回調査で最新の実態を把握へ、回答期限を延長

一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会は、科学技術系の研究者・技術者等を対象とする「第 6 回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」（通称：大規模アンケート）を回答期限を2027年 1月 29日（金）まで延長して実施中です。2003 年から続く本調査では、過去 5 回で延べ 87,380 件の回答が寄せられ、雇用や研究環境、キャリアをめぐる様々な課題が明らかになっています。これらの課題の現状を把握し、今後の施策につなげるため、科学技術系の研究者・技術者・専門職の皆さまに回答へのご協力をお願いします。

過去の調査で明らかになった研究環境の課題

◆ 任期付き職の契約期間の短期化
契約期間が5 年以下の割合は、第4回調査（2016年）の男性 49%・女性41%から、第5回調査（2021年）には男性 90%・女性 92%に増加（別紙資料左図）。

◆ 任期付き研究員の平均年収が低下
第3回調査（2012年）から 第5回調査（2021年）にかけて、任期付き研究員の年収は男性約 460 万円から約 429 万円、女性約 390 万円から約 383 万円に減少。
一方、任期なし研究員では男女とも上昇（別紙資料中図）。

◆ 研究・開発時間の減少や昇進・年収等の格差の継続
研究・開発に充てる時間の減少や任期付き研究者の社会保障加入率の減少が浮き彫りに。女性の昇進の遅れ（別紙資料右図）や年収、研究資源の格差などの課題が依然として存在。

第 6 回調査で明らかにしたいこと
今回の調査では、過去5回の調査結果と比較しつつ、任期付き職の累積年数や雇止めの経験、ハラスメントと異動・離職の関係、支援制度の利用とその後のキャリア、企業で働く研究者・技術者の課題などを詳しく把握します。

一人ひとりの回答が、これからの研究環境を考える大切なデータになります。
研究者が安心して研究を続けられる環境を整えるためには、現場の実態を正確に把握することが欠かせません。連絡会は得られたデータを基に提言・要望を行い、政策形成につなげていきます。研究環境が改善した方も、課題を抱えている方も、今の状況をお聞かせください。

調査名	第 6 回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査
対象	科学技術系の研究者・技術者・専門職の方
回答期間	2026 年 10 月 10 日（土）～2027年1月 29日（金）［回答期限延長］
回答方法	Web で回答 （https://t-enq.com/enq/kagaku/）
実施主体	一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会 （https://djrenrakukai.org/）

【報道関係のお問い合わせ】 一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会
担当：志牟田美佐　E-mail：danjo_office24@djrenrakukai.org

※図解資料（別紙 A4・1 枚）「第 6 回大規模アンケート_プレスリリース.pdf」もご参照ください

一般社団法人　男女共同参画学協会連絡会

継続するから、変化が見える

第6回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査　回答協力のお願い

- 第1回～第5回で 延べ87,380件の回答を蓄積
- 調査結果に基づいた提言・要望は政策文書の議論に活用
- 第6回調査は、過去との比較を保ち、研究活動を続けるための条件を詳しくとらえる

これまで明らかになった主な変化

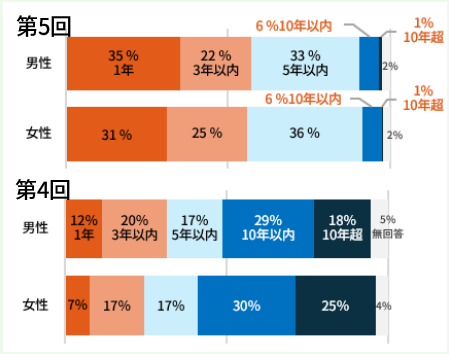
2003年	2007年	2012年	2016年	2021年
第1回 19,291件	第2回 14,110件	第3回 16,314件	第4回 18,159件	第5回 19,506件
研究環境・キャリアの男女格差を可視化	ポスドクの雇用不安 女性の「独立」の壁	支援制度が進んでも研究資源・役職格差が残存	昇進・評価・無意識のバイアスが課題	女性の昇進の遅れ 任期の短期化 社会保障加入率の減少

特に注目すべき課題（経年比較で明確に！）

第1回～5回 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート報告書をもとに志半田美佐が作成（2026年）

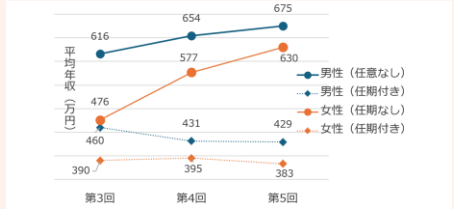
任期付き職の契約期間が短期化

任期付き職の契約期間「5年以下」が男女ともに約9割に増加！

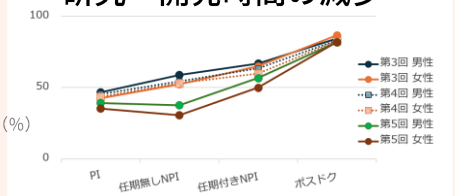


現職が任期付き職の任期年数

任期付き研究者の年収は減少



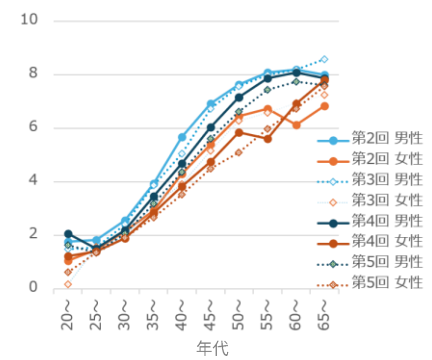
研究・開発時間の減少



在職場時間に占める研究・開発時間の割合

女性の昇進の遅れの継続

役職を序列化した0～10の相対的な「役職指数」に換算し年齢層別に比較。女性の役職指数は同年齢の男性より低い



第6回調査の主な焦点

- 雇用の不安定さ
- 研究継続を妨げるハラスメント
- 支援策の実効性
- 企業の研究・技術職の課題

より良い研究環境のために

現状の研究環境を把握するには、あなたの回答が必要です。

対象：科学技術系の研究者・技術者・専門職の方

回答はこちら▶ https://t-enq.com/enq/kagaku

回答期間延長：2026年10月10日（土）～2027年1月29日（金）

あなたの今を、未来のエビデンスに！

EPMEWSE

実施：一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会　　公式サイト： https://djrenrakukai.org/